

説 教

聖日礼拝 北浜チャーチ  
黒田 禎一郎

2019年2月25日（日）

主 題：「主イエスを見つめ続けなさい」

ー「人生勝利の秘訣ー

テキスト：ヘブル人への手紙12章1ー3節

## はじめに

- このところ、日本の報道は平昌（ピョンチャン）冬季オリンピックで一色です。今日は、17日間つづいた平昌冬季オリンピック最終日です。日本選手は大活躍してくれました。中でもフィギュアスケート男子の羽生選手の金メダル受賞、そしてスピードスケート女子500メートルの小平選手の金メダル受賞、そしてスケート女子団体パシユートの4人組の金メダルは光っていました。彼らは受賞インタビューで一様に、「応援くださった皆さんのお陰です。」と笑顔で語っていました。
- オリンピックの各試合では最終戦になると、まさに手に汗を握るシーンでしたね。テレビの瞬間最高視聴率は、なんと46%にもなったと聞きました。羽生選手は2大会連続優勝ということで、記念切手も発売されました。実に明るいニュースで、元気と勇気を与えてくれました。
- これは冬季オリンピックですが、約2年後には東京オリンピックが待っています。世界中のスポーツマンは、オリンピックに向かい熱心に練習を積んでいます。そのオリンピックのハイライトとなるのはマラソン競技で、世界中の人々が注目します。東京オリンピックも、今から大きな期待が寄せられています。
- ところで聖書は、私たちの信仰生活を長距離競走（マラソン）に例えています。  
12:1 こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、いっさいの重荷とまつわりつく罪とを捨てて、私たちの前に置かれている競走を忍耐をもって走り続けようではありませんか。  
(新改訳聖書)
- 12:1 このようなわけで、私たちは信仰によって生きたこんな多くの人たちが、ちょうど競技場の観覧客のように私たちを見ているのだから、私たちの信仰生活という競争を一生懸命やろうではないか。  
(現代訳聖書)
- 著者は11章において、「信仰によって」生きた多くの先人たちを挙げました。その中には有名な人もいましたし、無名の人にもいました。信仰の先人というのは、数えきれないほど多数です。私たちの家族、知人、友人もいます。
- その人々が競技場の観覧客のように、私たちの信仰生活の有り様を見ている、と言うのです。「よくやっている」と言っているかもしれませんが、あるいは「また、あんなことをやっている!」と、言っているかもしれません。いずれにせよ、すでに召され主と共にいるクリスチャンたちは、私たちの信仰生活を見えています。いいえ、見ているだけでなく、応援してくれているのです。彼らは信仰の勝利を得た人たちでした。
- ですから著者は、「私たちの前に置かれている競走を忍耐をもって走り続けようではありませんか。」(12:1)と勧めました。  
今日、私たちは勝利の信仰生活をどうすれば送ることができるか、ご一緒に学びたいと思います。2点。

## 大切なポイント

### 1 神が定めているコースを見る

12:1 私たちも、いっさいの重荷とまつわりつく罪とを捨てて、私たちの前に置かれている競走を忍耐をもって走り続けようではありませんか。 新改訳

12:1 こういうわけで、わたしたちもまた、このようにおびたしい証人の群れに囲まれている以上、すべての重荷や絡みつく罪をかなぐり捨てて、自分に定められている競走を忍耐強く走り抜こうではありませんか、 新共同訳

- ・私たちの信仰生活は、神が定めておられるコースです。神が定められているコースは、無理なコースではありません。不可能なコースでもありません。しかし適当にやってこなせるコースでもありません。
- ・そのコースは、私たちに与えられている力を発揮すれば、必ずやり通すことができるコースです。しかもそれは、神が私たち果たすよう与えられているコースです。
- ・では、私たちは信仰生活のコースをどのように走るべきでしょうか？ここで著者は次の3点を勧めました。

#### 1) いっさいの重荷を捨てること

- ・競争をし、勝利を得ようとする人にとって大事なことは、何よりもまず身軽な出立たちでなければならないことです。余計なものを身につけていては走れません。長ズボンをはいたり、革靴をはいて走る人はいないでしょう。あるいは荷物を背負って走る人もいないでしょう。
- ・それと同様に「邪魔になるもの」を捨てる必要があります。邪魔になるものとは、重荷になるものです。信仰生活で邪魔になるものとは何でしょうか。いろいろありますが、思い煩いがあります。私たちは大なり小なり、思い煩うものです。皆さんは、いかがでしょうか。
- ・ではなぜ、思い煩いはよくないのでしょうか？  
⇒それは霊的力を消耗させるからです。
- ・また自分のための要求や権利の主張も、信仰生活で邪魔になります。他に、妬み、憎しみ、赦せない思い、嘘、偽り、人を裁く心や愛の言葉などは、すべて信仰生活という競争の邪魔になります。それらは信仰生活を送る上で重荷となりますから、捨てる必要があります。

#### 2) まつわりつく罪を捨てること

- ・罪が私たちの信仰生活で邪魔になることは当然です。罪は巧みに私たちをとりこにします。ですから、ここでは「まつわりつく罪」と言っています。悪魔は私たちの肉欲や食欲を利用し、私たちを誘惑してきます。生まれながらの利己的性質に働きかけてくるのです。最初は軽はずみな行動に誘い込み、後では憂うつな失望へと引っ張り込もうとします。こうして、私たちを罪で縛ってしまおうとするのです。
- ・「まつわりつく」とは「容易に取り込んでしまう」とか、「すぐにからみついてしまう」という意味です。人間は「もう二度とこのような罪を犯すまい」と思っても、また同じことを繰り返してしまう弱さを持っています。

#### {例 話}

- ・日本では毎年の大晦日に、除夜の鐘が鳴り響きます。その鐘の数は人間が持つ108つの煩惱で「108の煩惱」の象徴とされています。煩惱とは心身を煩わせるあらゆる種類のもので、その数は108、あるいは8万4千もあるといわれています。それほど人間は悪に染まり易く、戦いがあります。

- ・除夜の鐘の音とともに、多くの日本人は煩惱から解放されるようお願い求めています。新しい年は、煩惱から解放される新年されますように、というのが願いです。しかし、それを毎年のように、くり返しているのが現実です。「まつわりつく罪」から解放されることはないのです。著者は「まつわりつく罪」において、ここでは「自分に定められている競争」と言っています。すなわち「信仰の戦い」です。
- ・しかし、私たちにとって力強いことがあります。それは、それよりもさらに大きな力を持っているお方（神）が、すぐ側にいてくださるからです。私たちを力づけ、励ましてください。ですから、それらのものを捨てることができるのです。もう一つ大切なことがあります。

### 3) 忍耐して走ること

- ・次に大切なことは、忍耐して走り通すことです。忍耐というと、ただじっとして我慢すること、と思うかもしれませんが。信仰生活は大変だなあ、と思うかもしれませんが。しかし、そうではありません。
- ・長距離競争のランナーには、必ず忍耐が必要です。マラソン選手たちは日頃の訓練によって、それに耐えるように鍛えています。私たちの信仰生活というコースは、「神の定めておられるコース」です。神によって信仰が与えられた人なら、だれでも走り通すことができます。
- ・そればかりではありません。観覧席には、信仰の旅路を立派に走り抜いた先人たちがいるのです。そして、ただ応援の声を聞くだけではありません。彼らの顔を見るならば、彼らは一様に「出来るから、走り続けなさい」と激励してくれています。ですから忍耐して走る事ができるのです。
- ・これら①重荷を捨てること、②罪を捨てること、③忍耐して走ることの3点が、神が定めておられるコースを走る上で大切なことです。

## 2 イエスを見つめ続けること

### 1) 見つめ続けること

12:2「信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されました。」

- ・信仰生活で、邪魔になるものを捨てること、まつわりつく罪を捨てること、そして忍耐して走ることは大切です。しかし、何よりも大切なことは、「イエスを仰ぎ見る」ことです。これが勝利を得る秘訣です。
- ・では、なぜ「イエスを仰ぎ見る」ことが大切でしょうか。それは、イエスが私たちに信仰を与え、私たちの信仰を完成してくださるお方であるからです。ですから、私たちの心をそらすものから目をしりぞけ、「イエスを仰ぎ見る」ことが大切です。
- ・ここで「目を離さないでいなさい」という語を考えてみましょう。  
新改訳聖書：「イエスから目を離さないで」  
新共同訳：「イエスを見つめながら」  
現代訳：「私たちの心をそらすものから目をしりぞけ・・・イエスを仰ぎみなければならぬ」

- ・いずれの翻訳も幸いですが、この言葉は二つの言葉の合成語からできています。“aforontes”（アフォロンテス）という語で、afo（アフォ、・・・から離れて）と rontes（ロンテス、見る）です。つまり、イエスだけを見続けなければいけないことを教えています。

## ① 信仰の目的を知る

- では、なぜ私たちはイエスを見続けなければならないのでしょうか。それは主イエスが私たちに信仰を与え、また信仰を完成して下さるお方であるからです。つまり私たちの信仰の目的は、主イエスなのです。
- 私たちは何のために信仰を持ったのでしょうか。考えてみると、信仰は神から与えられたものです。自分からの信仰は、自己中心的なものです。中には立派な人格者になりたいと願い、洗礼を受けられた方もいるかもしれませんが、しかし、神が私たちに信仰を与え、救ってくださったのは、私たちが主イエスを知るためです。イエスはどのようなお方かを知るためです。
- **主イエスがどのようなお方か本当に分かってくると、私たちの人生は充実してきます。そしてこの世に生かされている意味が分かり、同時に使命も分ってきます。**ですから主イエスをよく知ることは大切なことです。

## ② イエスを仰ぎ見る

- では、イエスはどんなお方でしょうか。著者は次のように言いました。  
**12:2 「イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されました。」**  
 十字架の刑はまことに苦しみの極致なのに、なぜ喜んでその刑に服されたのでしょうか。それは私たちを罪から救うことが、喜びであったからです。聖書はこう語っています。  
**12:3 あなたがたは、罪人たちのこのような反抗を忍ばれた方のことを考えなさい。それは、あなたがたの心が元気を失い、疲れ果ててしまわないためです。**  
 皆さん、主イエスを見続けることは、「心が元気を失い、疲れ果ててしまわないためです。」でもあるのです。
- 現代人の最大の課題は、ここにあります。多数の人々は社会生活において、人間関係で非常に疲れています。心疲れている人が現代社会において、大きな問題となっています。職場では産業医が不足しています。その心の病が身体に影響を与え、身体的病気を患う人も少なくありません。聖書は、私たちがそのような社会で疲れ果ててしまわない道を勧めています。それはイエス・キリストを仰ぐ見る道です。
- 信仰生活は長距離ランナーにたとえることができると、言いました。マラソンでは途中棄権し、自分ひとりだけになってしまうことがあります。孤独な自分との闘いに負けそうになることもあります。信仰生活も同じです。なぜ、自分はこんな苦しい目に遭わなければならないのか、という思いが頭をもたげてきます。そして弱り果て、気落ちしそうになることがあります。
- また、どうしてあの人の祈りは答えられて、自分の祈りは答えられないのだろうかという思いのとりこになることもあります。しかしそのような時、主イエスを思い出してください。イエスは大祭司カヤパの官邸で、死刑の判決が下されました。その時の有様は次のようでした。**マタイ福音書**  
**26:67 そうして、彼らはイエスの顔につばきをかけ、こぶしでなぐりつけ、また、他の者たちは、イエスを平手で打って、**  
**26:68 こう言った。「当ててみる。キリスト。あなたを打ったのはだれか。」**
- 彼らは、イエスが誰であるか分かりませんでした。愚かにもイエスに、このようなひどい仕打ちをしました。神によって造られた人間が、このような仕打ちをする資格はどこにあったのでしょうか。

## 2) まったき信頼を持つこと

- ・イエスはすべてをご存じでありながら、何ひとつ仕返しをされませんでした。それにじっと耐えられたのでした。なぜ、それができたのでしょうか。ペテロは次のように言いました。 **1 ペテロの手紙**  
**2:22** キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも見いだされませんでした。  
**2:23** ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました。
- ・イエスがじっと耐えることができたのは、最後に正しくさばかれるお方(天父神)に全てを委ねておられたからです。 私たちが、ひどい仕打ちや、理不尽なやり方に対して耐えることができないのは、父である神が最後になある公正な裁きに任せることができないからです。
- ・こんな奴を放置しておいては大変だ、と思うのです。ですから「天に代わって不義を打つ」式の考え方で、自分の手で成敗しようとし反撃するわけです。結果は、戦いの泥沼状態に陥り、疲れきってしまいます。ですから、聖書は勧めています。  
**12:3** あなたがたは、罪人たちのこのような反抗を忍ばれた方のことを考えなさい。それは、あなたがたの心が元気を失い、疲れ果ててしまわないためです。
- ・ペテロは、次のように語りました。 **1 ペテロ 2章**  
**2:21** あなたがたが召されたのは、実にそのためです。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残されました。
- ・皆さん。ここに争いに巻き込まれない秘訣があります。肉の自分は肉で打ち返そうとします。それは私たちの本性です。しかし、そこには勝利はありません。
- ・私たちはキリストの模範にならい、救われた目的に従った生き方をしようではありませんか。キリスト・イエスを見つめ続け、キリストが生きられたように生きようではありませんか。それが、信仰生活という神の定めておられるコースを走り通す生き方、勝利の秘訣です。

### ま と め

主 題：「主イエスを見つめ続けなさい」

—人生勝利の秘訣—

- ・今日、私たちは人生の勝利の秘訣を学びました。それは主イエス・キリストを見つめ続けることにあることを教えられました。具体的に言うならば、次の2点に要約できるかと思います。
1. イエス・キリストを見つめ続けること
  2. 天父神に全き信頼を持つこと

\* God bless you !